

霧島山新燃岳 2017年10月11日～12日噴火の火山灰に含まれる粘土鉱物（速報）*

Hydrothermal clay minerals contained in the volcanic ash of October 11 - 12, 2017 Kirishima Shinmoedake Eruption (Preliminary report).

防災科学技術研究所**

National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience

霧島山新燃岳から2017年10月11日～12日に噴出し山腹に降下した火山灰は比較的細粒であり、粘土分を多く含んでいた。粘土を構成する鉱物を明らかにするため、粉末X線回折(XRD) 実験を行なった。試料は11日噴出火山灰(高原町後原付近の干草ロール上で11日夕方に採取)および12日噴出火山灰(高千穂河原西方の県道路肩で12日午前に採取)の各1点である。

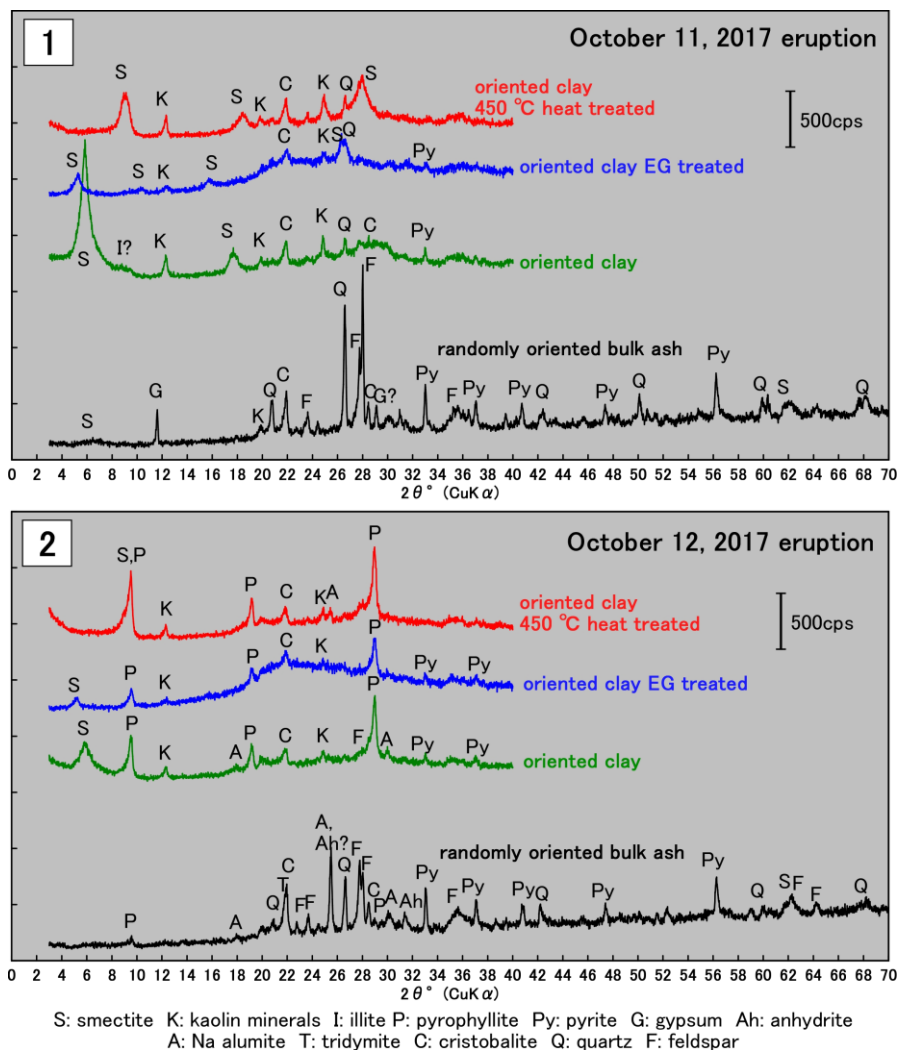


図1 2017年10月11日・12日噴火降下火山灰のX線回折実験結果。

Fig.1 XRD patterns of airfall tephra (October 11 and 12, 2017).

* 2017年12月1日受付

** 長井雅史, 入山 宙, 三輪学央 Masashi Nagai, Iriyama Yu, Takahiro Miwa

実験の結果、どちらの試料からも酸性～中性の熱水変質帯に由来するとみられる粘土鉱物のピークが検出された（図1）。しかし鉱物組み合わせはやや異なっており、11日より12日のほうが一般的に比較的高温の熱水変質帯に産出する鉱物（例えばパイロフィライト）が含まれる傾向がある。

謝辞：日本大学文理学部の竹村貴人教授と金丸龍夫博士にはX線回折装置使用の許可を頂いた。記して感謝の意を表す。